

幸福度に関する研究会
第5回議事録

内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付

第5回 幸福度に関する研究会
議事次第

日 時：平成24年1月18日（水） 11:00～12:30

場 所：中央合同庁舎4号館第3特別会議室

1. 開 会

2. 議 題

1. 幸福度指標試案を踏まえたパネル調査について
2. 今年 of 幸福度研究の取組方針
3. 幸福度に関する研究会の今後の進め方

3. 閉 会

○山内座長 それでは、時間になりましたので、第5回の「幸福度に関する研究会」を開会したいと思います。

今年になって初めてということで、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、所用のため、大串政務官は御欠席となっておりますので、あらかじめ申し上げます。

あと委員の中では、牧野委員、宮本委員、山田委員が御欠席となっております。

それでは、本日の議題について確認をしたいと思うのですが、前回は昨年8月ということで第4回研究会を開催したわけですけれども、それ以来ということで、その間、報告書について主としてメール上のやりとりを経て、昨年12月に幸福度指標の試案というのをとりまとめさせていただきました。今日もお手元に研究会報告が配付されていると思います。

まず事務局の方から、これまでの経緯について御説明をいただきたいと思います。その後それを踏まえて、今日は3つの議題について御議論いただきたいと思っています。

1つは、幸福度指標の試案を踏まえたパネル調査をどういうふうに進めるかということ。

2番目は、今年の幸福度研究の取組みの方針についてということ。

3番目は、この研究会の今後の進め方をどうするか。

その3つについて議論をいただきたいと考えています。

議題に入る前に、委員に新たにおなりいただいた方を御紹介したいと思います。

ブータン政府の **Gross National Happiness Commission** の前首相フェローをされておられます御手洗委員に御参加いただいていますので、簡単に自己紹介していただければと思います。

○御手洗委員 御紹介にあずかりました御手洗瑞子でございます。

昨年の8月までブータン政府の **GNH** 委員会、国民総幸福度の委員会で首相フェローとして、ブータンの公務員として働いておりました。今は日本のマッキンゼーという会社に勤めております。どうぞよろしくお願いいたします。

○山内座長 ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局側で国家戦略室が新たに事務局サイドで加わっていただくことになりましたので、事務局の体制も強化されるということで期待しております。よろしく申し上げます。

それでは、議題1の「幸福度研究の検討状況及び幸福度指標試案を踏まえたパネル調査」の議論に入りたいと思います。

まず資料1に基づいて、経済社会研究所の桑原上席主任研究官から、これまでの検討状況等について御紹介いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○桑原上席主任研究官 御紹介ありがとうございました。

それでは、お配りしました資料1に基づいて御説明させていただきます。

最初に、前回研究会で御議論いただいた後、座長から御紹介があったとおり、メールベースで調整させていただきまして、12月のアジア太平洋コンファレンスの機会に報告書を

公表させていただきました。ありがとうございました。

研究所における幸福度研究の現状と当面の作業をこれから御説明させていただきたいと思っております。

資料1の2ページ目をごらんください。現在、研究所で行っております作業は大きく分けると3つの柱から構成されます。

1つがパネル調査の実施などのデータ収集。

2つ目が収集したデータを活用した研究。

3つ目に OECD 幸福度・社会進歩測定作業への貢献というものです。

3ページ目をごらんください。その最初の柱の「パネル調査の現状と作業予定」について御説明申し上げます。

昨年12月下旬に、調査実査の入札を行いました。結果、新情報センターというところが落札しました。その際の調査名ですが、「生活の質に関するパネル調査」としてあります。現在、平成24年3月上旬に実査予定としております。来年度の実査の予算を確保できることになっております。といっても予算ですので、予算案が通らないと執行できないということになります。

併せて、設問留置法の調査では、実査する数が多すぎたり、回答負担の大きい間などが入ると回収率が下がるということもありますので、限界があることを御了解ください。カバーしきれない間については、別途実施予定のインターネット調査で行いたいと思っております。調査票の詳細については後ほど議論させていただきますので、ここでは避けたいと思っております。

なお、調査票ですが、実査を当初申し上げた2月から3月にもう遅れております。その結果として、議論する時間はあるのですが、いずれにしても今月いっぱい固める必要があります。

4ページ目をごらんください。「収集したデータを活用した研究」の状況について御説明させていただきます。

既に実施しました若年層調査の結果を活用しまして、幾つかの研究が進行中です。既出の成果としましては、委員になっていただいている内田先生の御協力があって、執筆された「東日本大震災直後の若年層の生活行動及び幸福度に対する影響」という Working Paper がございます。これ以外にも幾つかまだ出る予定となっております。

また、幸福度指標試案に含まれる既存データ、今回のパネル調査だけでなくさまざまなところからデータを取ってこようとしています。それについてのデータ収集を委託調査で開始することを予定しております。

今後についてなのですが、実施予定の各種調査の結果を活用しまして、幸福度指標事案の次元別に研究を行っていきたいと考えています。その成果については英文でも紹介し、国際広報にも活用していく予定になっております。

なお、1点、お願いなのですが、今回の指標試案ですが、どの委員がどの指標を

提案されたかというのを後ほど伺わせていただきたいと思います。御協力をお願い申し上げます。というのは、外部から問い合わせがあるときにどういう背景があるのかと詳しく説明できる状態にないものですから、その点、御協力をお願いいたします。

次に、3つ目の柱ですが、こちらも後ほど議題2にありますので、今回省略させていただきますと思います。

とりあえず以上です。

○山内座長 ありがとうございます。

何か御質問等ありますでしょうか。

それでは、調査票の説明は、今はされないですね。

○桑原上席主任研究官 では、次にパネル調査の中身の方に移ってよろしいですか。

○山内座長 では、よろしく申し上げます。

○桑原上席主任研究官 それでは、早速パネル調査の方に移りたいと思います。

報告書にも記載されていますとおり、当研究所では幸福度指標試案に含まれる主観的指標を中心とするデータを収集するため、パネル調査を実施します。調査の概要ですが、お配りした資料2をごらんください。

真ん中の辺りに「4. 調査概要」とございます。これに基づき御説明させていただきますが、調査対象は国民生活選好度調査にならう形なのですが、全国の15歳以上。

調査客体は層化3段抽出法により選ばれた世帯ですが、約1万440人の個人です。

東日本大震災の被災地の動向を把握するために、被災地だけで1,000人が選ばれるようにしています。

また、このように地域別に客体数に変化を加えることから、全国からランダムサンプリングするのではなく、ある程度人口の少ない都道府県には厚めに調査客体を割り振る形にしています。全国値への場合ですと、ウェートをかけて再修正することも可能かもしれませんが、恐らく大した影響はないと考えています。

調査の地理的範囲ですが、全国364市町村、522単位区ということになります。

実施回数ですが、残念ながら今年度は1回のみということになり、調査の時期も3月ということになります。

有効回収率については、被災地でも60%、被災地以外では70%を目指すことを予定しています。

調査方法は訪問留置法です。客体の希望により郵送回収を認めています。

抽出台帳は住民基本台帳です。

提出期限はこちらにこういうふうに書いてありますが、実際の公表できるレベルの集計が終わるのは5月ころになるのかなと考えています。

○山内座長 ありがとうございます。

それでは、続いてOECDとの関係あるいはそれを含めて指標のアップグレードに向けた

取組みについて、桑原さんから御説明いただきます。

○桑原上席主任研究官 それでは、また最初に戻りますが、資料1の5ページ目をごらんください。

研究所における幸福度研究作業の第3の柱である「OECD 幸福度・社会進歩測定作業への貢献」ですが、そちらを御紹介させていただきます。

まずその前に、OECDにおける作業について御説明申し上げます。

OECDはほぼ10年間にわたって幸福度・社会進歩測定作業を推進してきました。作業はおおむね3つの領域に分類できます。

1つが独自研究で、主観的幸福度の測定ガイドラインの策定、グリーン成長指標、国民経済計算における格差の測定などを行ってきています。

もう一つが普及活動で、How's Lifeの出版、Your Better Life Indexの公表などを行っています。

3つ目が国際的な対話の推進ということで、世界フォーラムの開催等を行っています。先日、各委員にも御協力いただきました幸福度に関するアジア太平洋コンファレンスもその一環です。

6ページ目、当研究所の貢献ですが、まず政策担当者、有識者がOECDにおける各種国際会議に出席して、我が国のイニシアティブや意見を紹介するのをサポートしてまいりました。昨年5月には末松前副大臣がYour Better Life Indexが公表されたOECDフォーラムにパネリストで参加し、意見交換されましたが、その際のサポートを行いました。昨年10月には西村周三国立社会保障人口問題研究所長が、How's Lifeが公表された仏とOECD共催の会議にパネリストで参加されましたが、その際のサポートも行っております。

また、OECDと共催で行いました幸福度に関するアジア太平洋コンファレンスも行いました。これを通じてアジア太平洋地域における幸福度測定に関する国際対話を促進してまいりました。OECD統計委員会、専門家会議に積極的に参加し、How's Life等の作成にも貢献してまいりました。

7ページ目、今後の作業予定ですが、まずOECDにおける第1の柱である独自研究、今後とも貢献を継続したいと考えています。主観的幸福度測定のガイドラインのドラフトに対しては、我が国の主観的幸福度の測定方法における知見をインプットしたいと考えています。具体的には人生満足度だけでなく、主観的幸福感についてもガイドラインから排除されることがないように研究成果を活用しつつ、交渉してまいりたいと思っています。また、助言グループが存在するのですが、こちらに対しての日本からの参加者についても検討したいと考えています。

幸福度の次元について、家族や自然といったものは今のところ入っていないのですが、こういったものも入っていくように頑張っていきたいと思っています。また、国民経済計算における格差の測定専門家会合への参画は継続すると思いたいと思っています。

8ページ目ですが、OECDにおける第2、第3の柱の普及活動・国際的対話への貢献で

すが、OECD 等で開催される主要な国際会議において、我が国の意見を表明する政策担当者、有識者への研究面での支援を継続します。

また、インドで開催される世界フォーラムのアジェンダ設定等にアジア太平洋コンファレンスの成果が活用されるよう、OECD 事務局等との対話を継続したいと考えています。インドで開催される世界フォーラムにも積極的に参画してまいりたいと考えています。

9 ページ、今後の OECD 関係のスケジュールですが、3 月 1 日に OECD 統計委員会の拡大ビューローというのが開かれることになっています。こちらで来年度の予算、更に統計局の予算等が議論されますので、我が国が希望される作業について交渉してまいりたいと考えています。5 月下旬には OECD 閣僚理事会、OECD フォーラムが開催されますので、昨年度より引き続きサポートをしてまいりたいと考えています。

6 月の OECD 統計委員会では、主観的幸福度ガイドラインに関して議論されると思いますので、それについても交渉してまいりたいと思っています。

10 月については、16 日～19 日にかけてインドで世界フォーラムが開催されますので、これに積極的に参画してまいります。よろしく願いいたします。

○山内座長 それでは、議題は議題 3 と別になっているのですが、関連するのでこの研究会の今後の進め方について、小長井さんの方から御説明いただいて、その後、コメントをいただきたいと思います。

○小長井上席政策調査員 そうしましたら、資料 5 をごらんください。ワードのスケジュールが縦で書いてある紙でございます。一部、今、桑原さんの方から御説明があった部分とかぶりますが、今年 1 年研究会をどのように進めていくか、そのときのマイルストーンになるのではないのかというのを書いてございます。

上段、第 5 回研究会、今回まさに研究会をやっておりますが、ここから調査を 1 月に向けてとりまとめ、調査自体を行って、各界の意見交換を行った上で、一応今、4～5 月ぐらいに第 6 回研究会を考えてございます。

同じタイミングで横を見ていただきますと、先ほど桑原さんの方からありました OECD の拡大議長国会合、閣僚理事会が半ばに控えていますので、それに向けての御意見、インプットいただく場にしたいと考えています。

その後、夏以降、第 7 回研究会というところ、ここはパネル調査の分析結果がどのタイミングで出てくるかというところもございまして、一応年内夏明けくらいにもう一度やらせていただく。右側の 10 月に OECD の世界フォーラムがございまして、ここが 1 つの今年の大きなマイルストーンになると思いますので、それに向けての皆さんの御知見をいただくというような流れを考えてございます。

別途、韓国、ブータン等のパイの進め方に関しましては、各国の事情もかんがえみながら、基本的には 10 月の OECD 世界フォーラムに何かしらのインプットが出せるような形でマイルストーンを考えているというのが現状でございます。

○山内座長 そこまで一気にいきましたけれども、今までのところで何か御質問とかコメ

ントとかありますでしょうか。

私の方から1つだけ。広報はこの研究会は役所の研究会なので毎回の資料とかが公開されますね。そういうホームページはあるのですけれども、OECDのYour Better Life Indexですとか、ああいうたぐいの一般の人が近づきやすいようなプレゼンになっていないような気がするのですけれども、そういう専用のホームページみたいなものをつくることはできないのですか。

○市川総括政策研究官 日本語でということですか。

○山内座長 まずは日本語でいいと思うのですけれどもね。

○市川総括政策研究官 OECDの方ではかなり各国の状況なども踏まえた英語のホームページがありますので、英語でよければそれとリンクを目立つようにするとかというのは可能だと思います。

○山内座長 こういう研究を役所がやることの意義みたいなことがもし問われるのだったら、当然、日本の納税者が払っているのですから日本語でまずは広報しなければいけないのではないかと思うのです。英語にリンクして英語を見なさいというのはどうかと思います。

○桑原上席主任研究官 一応幸福度研究についての研究所における作業につきましては、ページは現在設けました。英文版も先ほどアップされました。非常に短いもので、今後充実していきたいと考えています。

○山内座長 OECDのものなどは非常に簡単な仕掛けだけでも、自分でウェイトを変えることによって参加しているような意識になるではないですか。そういう工夫が、あれの二番煎じでも困るのですけれども、今までこういうテーマに関心のなかった人でもそのホームページを見れば関心を持つようなものが望ましいと思うのです。資料を公開するというのは、ディスクロージャーという意味ではやられている、それはそれでいいと思うのですけれども、加えて広報した方がいいのではないかなと思います。

○市川総括政策研究官 私たちが残業してやればいいのですけれども、頑張りたいと思います。

○山内座長 今後に関して、先ほどこの研究会の進め方について御説明がありましたけれども、今までは事務局で資料を準備していただいて我々がそれをたたかとかコメントするような形で進めてきたのですが、当面、幾つかの具体的にやらなければいけないことというのが見えてきたので、それぞれ御担当をお願いできればと思っています。

今日御議論いただいたパネル調査を1月末に向けて確定していかなければいけないわけですが、それに関しては駒村委員を中心にとりまとめをお願いできればと思っています。国際発信ということについては、就任されたばかりで恐縮なのですが、御手洗委員をお願いできればと思っています。指標のアップグレードに関しては内田委員に御担当をお願いできればと思っています。皆さん、御内諾はいただいていると伺っているので、どうぞよろしくをお願いします。

全体の座長を私がやらせていただいているのですが、副座長を駒村委員にお願いできればと思っています。大阪から出てきているもので、今日も乗る予定の便が急に欠航になっていて危うく遅れかけたのですけれども、そういうこともありますので、副座長を駒村委員にお願いしたいと思っています。

大体時間になったのですけれども、今、役割をお願いした委員は中心になってやっていただくということで、その方だけをお願いするというわけではないので、ほかの委員の方も、勿論、御意見等を積極的に出していただければと思っています。

それでは、大体時間になりましたので、日程等について事務局から御説明いただけますでしょうか。今後の日程調整等について、次回。

○井野参事官 先ほどの資料にもありましたように、次回のめどは4～5月ということになりますので、また日程等を具体的には事務局から調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○山内座長 調査案については、再度集まって議論することはできないので、またメール上でのやりとりになると思っておりますけれども、1月末に向けて確定する作業をやりたいと思っていますので、御協力のほどをお願いいたします。

それでは、本日の研究会はこれで閉会といたします。

どうもお忙しいところをありがとうございました。

注) 議題1「幸福度指標試案を踏まえたパネル調査について」の議論は、実査への影響を避けるために、実査終了まで非公開とする。